

「授業の改善・充実のための取組」(社会)

～知識・技能を活用する力を伸ばす授業の工夫～

課題の設定

1. めあて(ねらい)の設定において

○単元のはじめに

- ・児童が関心をもつような資料を提示して、そこから出た驚きや疑問などをもとに単元を貫く学習課題を設定する。
- ・単元を貫く学習課題について自分なりの予想をたてる活動を行い、その予想などから課題を追究するための観点や小課題を設けるようにする。
- ・見通しをもって課題解決ができるように、予想を確かめるにはどのような方法が良いか話し合い、追究計画を作成する。

○授業のはじめに

- ・本時は追究計画のどの時間に当たるのかを確認し、本時の課題を設定する。

追究する場面における手だて

2. 課題解決のための支援(考え、表現させる授業の工夫)

- ・児童に資料を提示する際には、児童の実態に合わせ、その資料が授業のねらいの達成や単元を貫く学習課題の解決に結びつく内容であるかや、その資料から何を読み取らせたいかを教師が明確にもっておくようにする。
- ・児童が必要な資料を集める際は、その資料が小課題に沿った資料であるかどうか判断して選択するよう助言する。
- ・児童が主体的に学習に取り組み、知識が十分に定着できるよう学習形態を工夫する。

既習事項の活用の工夫

- ・写真やグラフなどの資料を読み取ったり調べたことをまとめたりする際は、今まで学習した資料の読み取り方やまとめ方を使って行わせるようにする。
- ・自分の考えをもつ際は、調べてきたことや考えてきたことを根拠として考えをもたせるようにする。

3. 振り返り・まとめにおいて

考えを広げたり深めたりする工夫

- ・調べたことを比較・関連付け・総合させたり、社会的現象の意味を考えたりして考察する場を設ける。
- ・同じ考えの児童同士で考えの根拠となる情報を補完し合う場を設け、よりよい根拠をもって交流できるようにする。
- ・自分の考えをもった後に友達と考えを交流する場を設け、自分の考えを再構成させてより広い視野から自分の考えをもてるようにする。

○授業のおわりに

- ・毎時、本時の学習内容を踏まえ、学習課題に対する答えを自分で考え、表現する場を設ける。また、本時で行った各学習活動の一つずつ確認することにより、学んだこと、考えたことを振り返る。

○単元のおわりに

- ・単元を貫く学習課題を提示し、各時間ごとの主な学習活動を振り返る。
- ・追究場面で調べたことや考えたことを地図や年表、関係図などに整理するとともに、学習課題について自分の考えをもつ場においては、根拠を明確にした表現をする活動を取り入れる。

まとめの場面における手だて